

第36回六甲クイーンズオープン 10月9・10日/神戸六甲ボウル

3戦連続の姫路との決戦を制す

▶姫路と3戦連続の優勝決定戦での対戦を2勝1敗とした坂本「でも今も全日本の負けが悔しすぎて忘れられない」



予選(10G)、準決勝(5G)の15Gトータルで、3392を打った姫路を筆頭に、桑藤美樹、坂本、鶴井亜南、大根谷愛、霜



▶準優勝に終わった姫路「頑張ってきた最後のゲームが154はちょっと悲しいけど、このレーンで2日間投げて2位は上出来です」

出佳奈、丹羽由香梨、久保田彩花の8名が決勝ラウンドロビンに進んだ。そのラウンドロビンを7勝1敗で駆け抜けた坂本がトップシードを獲得、姫路は順位を一つ落としたが2位に踏ん張り、鶴井と桑藤のサウスポーの二人が3

位と4位で決勝ステッラダーに進んだ。4位決定戦は、1フレからフィフスの鶴井が、ダブルが1個もなかった桑藤を236:182で退けて勝ち上がった。3位決定戦は、鶴井が1フレいきなりのビッグフォーでつまずいた。姫路が2フレからのフォースでリードを広げると、鶴井は5フレから3連続オープンで自滅。220:162で姫路が優勝決定戦に進んだ。3試合連続となった坂本と姫路の優勝決定戦は、ともに変化

2月のWOMEN'S ALL☆STAR GAME2020の1試合を消化しただけで中断していた女子のレギュラーツアーは、第36回六甲クイーンズオープンが再開初戦となった。優勝決定戦は、昨年12月の全日本女子プロ選手権から3戦連続の坂本かや(49期・永山コバボウル)と姫路麗(33期・フタバボウル)の対戦となったが、坂本が今季の開幕戦に続いて姫路を連破、通算3勝目を挙げた。(主催: ㈱グランド六甲)



▶3位決定戦は自滅だった鶴井「大会をとおしてミスもしていなかったのに、最後に悪いところが全部出てしまった」



▶決勝のレーンは対処できなかった。でも自粛期間中にスペインを変えたり、新しい試みが結果には出たかなと思ふこと桑藤

してきたレーンへの対応に苦しんだ。1フレ姫路が③⑥⑦と割れてオープンを作ると、坂本も2フレ⑦⑩スプリット。姫路が4、5フレを連続オープンとするが、坂本も5フレ⑩をカバーミス。しかし「最後まで全然わからなかった」と振り返った姫路が8フレ3つ目のスプリットに対し、坂本は8フレのストライクをフォースへつなげて204:154で制し、開幕戦に続く今季2勝目を挙げた。

●優勝決定戦

Scoreboard table for the championship match between Kikuchi Rika and Sakamoto Kayo.

坂本かや

新時代のトビラ開ける 鮮烈の連勝

CRYSTAL CUP 10月11日/神戸六甲ボウル

2日連続のタイトル奪取でV4

開催の延期や中止が続くなかで、ひとつでも多くプロが輝けるステージを作りたいとの思いから、クラウドファンディングを利用して誕生したCRYSTAL CUP(B公認)は、六甲クイーンズオープンの翌日、ワンデーターナメントとして行われたが、前日までの六甲クイーンズを優勝の坂本かやが、新女王誕生を思わせる2日連続の優勝で、通算タイトルを4と伸ばした。(主催: ㈱グランド六甲)

▶六甲クイーンズはどのにもならなくて予選落ち。それを考えるとよくできましたと準優勝の佐藤



▲「練習の5分間といざ本番のレーンがまったく違って、エエって感じだった」と3位の久保田

予選(6G)の上位24名が決勝に進出、決勝はトーナメント方式(1~3回戦は2Gマッチ、準決勝・決勝は1Gマッチ)で争われた。予選を1370で1位通過は名和秋、1ピン差の2位に佐藤まさみと、六甲クイーンズオープンで予選落ちを喫した二人が意地を見せ、同大会で優勝を争った姫路麗が3位、坂本かやが4位で通過した。

1、2回戦の接戦を制した佐藤は、3回戦は尊敬する松永裕美を428:392で退けて準決勝に進んだ。佐藤以上に勝負強さを発揮したのは久保田彩花。1回戦を1ピン差、2回戦を5ピン差で勝ち進むと、3回戦は桑藤美樹を442:406で退けた。一方順当にいけば3回戦で当たる予定の姫路が2回戦で敗退したこともあって、坂本は危なげなく準決勝に勝ち上がった。

3名による1Gマッチで上位2名を優勝決定戦に選出する準決勝は、1フレからフォースの坂本が、後半2つのオープンを作ったが、200ですは勝ち抜けた。佐藤は左レーンの攻略に苦しんだが、192とまとめ、3つのスプリットで168に

終わった久保田が脱落した。

優勝決定戦でも坂本がターキースタートで先手を奪ったが、4フレは⑩をカバーミス、7フレは⑦⑩と割れて貯金を吐き出した。坂本が2ピンリードで迎えた10フレ勝負、1投目

とともにストライクのあと、坂本の2投目はカんでバランスを崩しながらもストライクでダブル。佐藤の2投目はやや薄めで②④を残し万事休す。坂本が2日連続の優勝で、今年3戦3勝とした。

六甲クイーンズ&CRYSTAL CUP 優勝



坂本かやのコメント

コロナで中断の間に、昨年までリスタイをしていた人たちもすごく練習していると思ったので、私ももっと進歩できるようにと、気を抜かずに練習をしていた。六甲クイーンズは、レーンの変化を冷静に分析しながら対処できた。姫路さんと3戦連続の優勝決定戦での対戦は、こんな経験はできることではない

ので、光栄だなと思った。

試合で疲れたなと思うことはあまりないけど、クリスタルカップは決勝トーナメントの2回戦ぐらいからボーッとした感じで、今まで味わったことのない感覚だった。優勝決定戦は、右レーンが10フレにくるように左スタートを選択したのが正解だった。右の方がちょっと幅があったので、10フレ2投目は力が入って内ミスをしたけど、倒れてくれた。

2連勝は、そんなことできるわけがないと思っていた。ただ六甲を優勝して、翌日予選落ちで帰るのはやばいなと思った。これからももっともっとうまくなれるように、そして1試合1試合を大事に臨みたい。(六甲クイーンズ優勝ボール: ハンマー ウェブボール) (CRYSTAL CUP優勝ボール: エポナイト ボルテックスV2)

●優勝決定戦

Scoreboard table for the Crystal Cup final match between Sakamoto Kayo and Satoh Masami.